

学習院大学所蔵『源氏物語』河内本「帚木」巻 翻刻(第三軸)と僚本／古筆切

武藤 那賀子

論文要旨

「伝為家筆本」と呼ばれる河内本『源氏物語』がある。「伝為家筆本」は、金沢文庫旧蔵とされる尾州家河内本と密接な関係があると考えられる。また筆跡と書風から、その書写時期も、尾州家河内本と同じ鎌倉中期といえる。しかし、この一連の河内本『源氏物語』で伝存するのは、卷子装に改装されたものや、断簡のみで残るものが多く、その数も少ない。学習院大学日本語日本文学科は、この伝藤原為家筆の『源氏物語』「帚木」巻の写本を所蔵している。

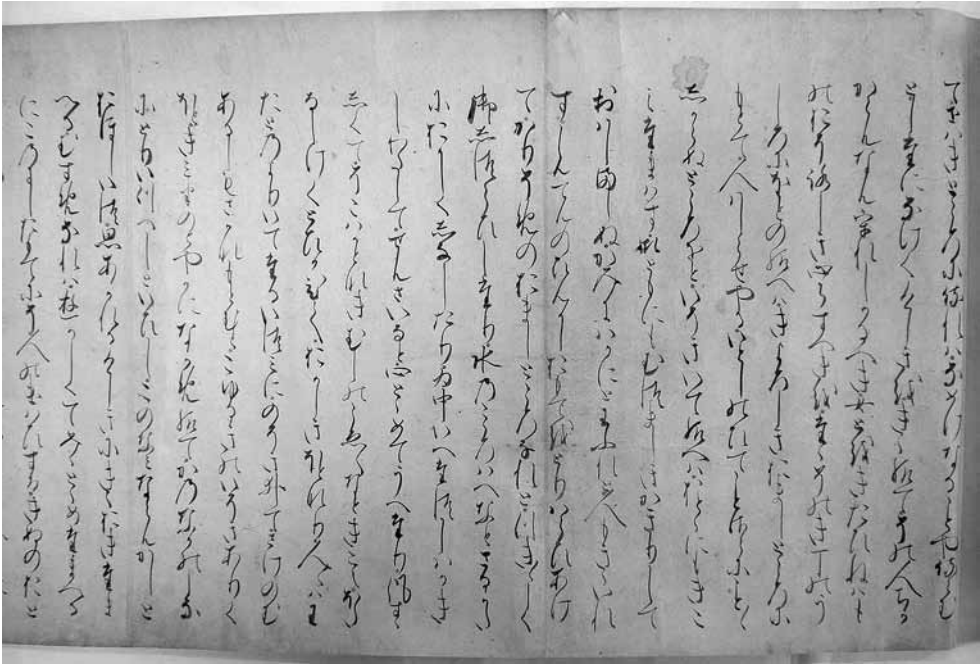
論者は、「学習院大学所蔵『源氏物語』河内本「帚木」巻 解題と翻刻(第一軸・第二軸)」において、当該本の書誌解題と全三軸中の第一軸目と第二軸目の翻刻を行なった。本稿は、第三軸目の翻刻を行ない、また、当該本の僚本、あるいはその古筆切を紹介するものである。

キーワード【河内本源氏物語、帚木巻、鎌倉写本、伝藤原為家筆、尾州家本】

一．はじめに

「伝為家筆本」^①と呼ばれる河内本『源氏物語』^②がある。「伝為家筆本」は、金沢文庫旧蔵とされる尾州家河内本と密接な関係があると考えられる。^③また筆跡と書風から、その書写時期も、尾州家河内本と同じ鎌倉中期といえる。しかし、この一連の河内本『源氏物語』で伝存するのは、卷子装に改装されたものや、断簡のみで残るものが多く、その数も少ない。^④学習院大学日本語日本文学科は、この伝藤原為家筆の『源氏物語』「帚木」巻の写本を所蔵している。

論者は、「学習院大学所蔵『源氏物語』河内本「帚木」巻 解題と翻刻(第一軸・第二軸)」^⑤において、当該本の書誌解題と全三軸中の第一軸目と第二軸目の翻刻を行なった。本稿は、第三軸目の翻刻を行ない、また、当該本の僚本、あるいはその古筆切を紹介するものである。



【図一】 学習院大学本『源氏物語』「帚木」巻 第三軸冒頭

二・翻刻

【凡例】

- 一・改行箇所や和歌の書式は原本のままとし、利用の便を考え、紙毎に区切り、紙数と行数を付記した。なお、当該本を示した上で、隣の行に小字で尾州家本の翻刻を載せた。尾州家本の改行部分は「〵」で示し、丁の表裏が変わる箇所は「〵〵」で示した。また、学習院大学本の紙数の下に、括弧書きで尾州家本の該当丁数を示した。

- 一・原本に用いられている変体仮名は、すべて現行の平仮名に統一した。ただし、原本の平仮名中に片仮名を混用した箇所は、片仮名を平仮名に改めた。

- 一・ミセケチは、取り消し線で示した。

- 一・傍記は、該当する文字の横にそのまま示した。

- 一・補入記号のない補入は「—」で示し、補入記号のある補入は「〈 〉」で示した。

- 一・朱点は「・」で、朱合点は「〵」で示した。尾州家本の朱点は、その位置から「・」だけでなく「〵」で示した箇所もある。

- 一・問題のある箇所については、注を各紙ごとに載せておく。

【一紙】(三三オ～三三ウ)

- 1 てせはきどころに侍れは・なめけなることや侍らむ
て・せはきどころに／侍れは・なめけなる事や侍らむ
- 2 と・したになけくけしきを・き、給て・その人ちか
と・したになけ／くけしきを・き、給て・その人ちか
- 3 からむなむうれしかるへき・女とをきたひねはも
、らむなむ・／うれしかるへき・をんなとをきたひねはも
- 4 のおそろしき心ちすへきを・た、そのき丁のう
のお／そろしきこ、ちすへきを・た、そのき丁のう
- 5 しろにをとの給へは・きよろしきおましとところに
し／ろ（に）をとのたまへは・きよろしき・おましとところに
- 6 もとて・人はしらせやる・いとしのひてことさらにこと／
も／とて・人はしらせやる・いと・しのひてことさらにこと／
- 7 しからぬところをと・いそきいて給へは・おと、にもきこ
しからぬところをと・いそきいて給へは・おと、にもきこ
- 8 えたまはず・御ともにもむつまじきかきりして
えたまはず・御ともにもむつまじきかきり／して
- 9 おはしましぬ・かみにはかにとわふれと・人もき、いれ
おはしましぬ・かみにはかにとわふれと・人も／き、いれ
- 10 す・しむてむのひむかしおもてをとりはらひあけ
す・しむてむのひむかしおもてをとり／／はらひあけ

【二紙】(三三ウ)

- 1 て・かりそめのおましとところなれと・つき／しく
て・かりそめのおましとところなれと・／つき／しく
- 2 御しつらひしたり・水のこ、ろはえ／なとさるかた
御しつらひしたり・水のこ、ろはえ／なとさるかた
- 3 におかしくしなしたり・る中いへたつしはかき
におかしくしなしたり・る中いへ／たつしはかき・
- 4 しわたして・せむさいなど・心と、めてうへたり・風す、
しわたして・せんさいなど・こ、ろと、／めてうへたり・風す、
- 5 しくて・そこはかとなきむしのこゑ／なときこえ・ほた
しくて・そこはかとなき／むしのこゑ／なときこえ・ほた
- 6 るしけくとひかひて・おかしきほどなり・人／はわ
るしけくとひ／まかひて・おかしきほどなり・人／はわ
- 7 たのよりいてたるいつみに・のそきゑて・さけのむ
たのより／いてたるいつみに・のそきゑて・さけのむ・
- 8 あるしもさかなもむと・こゆるきのいそきありく
／あるしもさかなもむと・こゆるきのいそきありく
- 9 ほと・きみはのとやかになかめ給て・かのなかのしな
ほと・きみはのとやかになかめ給て・かのなかのしな
- 10 にとりいつへしといひし・このなみならむかしと
に／とりいつへしといひし・このなみならんかしと／

【三紙】(三四オ)

- 1 おほしいつ・思あかれるけしきにき、おきたま
おほしいつ・思あかれるけしきにき、をきたま／
- 2 へる・むすめなれは・ゆかしくてみ、と、めたまへる
へる・むすめなれは・ゆかしくてみ、と、めたまへる／
- 3 にこのにしておもてにそ・人のけはひする・きぬのおと
に・このにしをもてにそ・人のけはひする。きぬ／のをと
- 4 なひさやかにほらくときこえて・わかきこゑともにく
なひ・さやかにほらくときこえて・わかきこゑ／ともにく
- 5 からす・さすかにしのひてものうちいひ・わらひなと
からす・さすかにしのひてものうちいひ・わらひなと
- 6 するけはひ・ことさらひたりかうしはあけたりつ
するけはひ・ことさらひたり。かうしは／あけたりつ
- 7 れと・かみこ、ろなしとむつかりておろしつれは・火
れと・かみこ、ろなしとむつかりておろしつれは・火
- 8 ともしたるすきかけさうしのかみよりもりた
ともしたるすきかけさうしのかみよりもりた
- 9 ともしたるすきかけさうしのかみよりもりた
ともしたるすきかけさうしのかみよりもりた
- 10 けるは・しはしき、給に・このちかきもやにつとひ
けるは・しはしき、給に・このちかきもやにつとひ

*十行目の尾州家本、「しはしき・給に」とあり、朱点の隣に「き」が補入される。

【四紙】(三四ウ)

- 1 ゐたるなるへし・うちさ、めきいふ事もをき、
ゐたるなるへし。うちさ、めきいふ事／ともをき、
- 2 たまへは・わか御うへなるへし・いといたうまめた
たまへは・わか「御」うへなるへし。いと・いたう／まめた
- 3 ちて・またきにやむことなきよすかさまり給へる
ちて・またきにやむことなきよすかさまり給へる
- 4 こぞ・さうくしかめれ・されとさるへきくまには・いと
こぞ・さうくしかめれ・されとさるへきくまには・いと
- 5 よくこそかくれありき給なれといふにも・おほ
よくこそ・かくれありき給なれ・などいふにも・おほ
- 6 すことのみ心にか、りたまへれは・まつ・むねつふれて・
すことのみ心にか、りたまへれは・まつ・むねつふれて・
- 7 かやうのついでにも・人のいひもらさんさき、つけ
かやうのついでにも・人のいひもらさんさき、つけ
- 8 たらむ時などおほえ給・ことなる事なければ・き、さし
たらむ時などおほえ給・こと／なる事なければ・き、さし
- 9 たまふつ・式部卿の宮のひめきみに・あさかほた
たまふつ・式部卿の宮のひめきみに・あさかほた
- 10 てまつれ給しうたなどを・すこしほ、ゆかみて
てまつれ給しうたなどを・すこしほ、ゆかみて

*一行目「ゐたるなるへし」の「なる」は、「なり」であったものを、「り」を削って上から「る」を書いている。

*二行目の尾州家本、「わか・うへ」となっており、朱点の右に「御」が補入される。

【五紙】（三四ウ〜三五オ）

- 1 かたるもほのきこゆ・くつろきかましくうたすし
かたるもほのきこゆ・くつろきかましくうたすし
- 2 かちにもあるかな・されはよ・なをみをとりはしな
かちにもあるかな・／＼されはよ・なをみをとりはしな
- 3 むかしとおほす・かみいてきてとうろかけそへ・
んかしとおほす・かみ・いてきてとうろかけそへ・
- 4 火あかくか、けなとして・御くた物はかりまいれり
火あかく・か、けなと／＼して・御くた物はかりまいれり
- 5 とはりちやうもいかにそはさるかたの心もなくては・
とはりちやうもいかにそは・さるかたのこゝろもなくては・
- 6 めさましきあるしならむとのたまへは・なによけむ
めさまし／＼きあるしならむとのたまへは・なによけん
- 7 とも・えうけたまはらすと・かしこまりて候・はしつかたの
とも・／＼えうけたまはらすと・かしこまりて候・はしつかたの／
- 8 おましに・かりなるやうにておほとのこもれは・人く
おましに・かりなるやうにておほとのこもれは・／＼人く
- 9 もしつまりぬ・あるしのことも・おかしけにてありて・
もしつまりぬ・あるしのことも・おかしけにてありて・
- 10 わらはなる殿上のほとに御らむしなれたるもあり・
わらはなる殿上のほとに・御覽しなれ／たるもあり・

【六紙】（三五オ〜三五ウ）

- 1 へいよのすけのこもありあまたあるなかに・いとけはひあて
はかにて・十二三は
いよのすけのこもあり・あまたあるな／かに・いと・けはひあてはか
にて・十二三は
- 2 かりなるもあり・いつれかいつれなど、ひたまふに・
かり／＼なるもあり・いつれかいつれなどひたまふに・
- 3 これはこゑもむのかみのすゑのこにて・いとかなしく
これ／＼はこゑもむのかみのすゑのこにて・いとかなしく
- 4 し侍けるを・おさなきほとにおくれ侍て・あねなる
し侍／けるを・おさなきほとにをくれ侍て・あねなる
- 5 人のよすかにかくて侍なり・さえなともつき侍へく・
人／のよすかにかくて侍なり・さえなともつき侍へく・
- 6 けしうは侍らぬを・殿上なども思給かけなから・す
けしうは侍らぬを・殿上なども思給かけなから・／
- 7 すか／＼しうはえましらひ侍らさめるときこゆ・あはれ
すか／＼しうはえましらひ侍らさめるときこゆ・あはれ
- 8 の事や・このあねきみや・まうとの、ちのおや・さなむ
の事や・このあねきみや・まう^人との、ちのおや・さなむ
- 9 侍と申にけなきおやをもまうけたりける
侍と申に・にけなきおやをもまうけたりける
- 10 かな・うへにもきこしめしおきて・みやつかへに
かな・うへにもきこしめしを／きて・みやつかへに

【七紙】(三五ウ〜三六オ)

- 1 いたしたてむともらしそうせさせし・いかに
いたしたてんと・もらしそ／うせさせし・いかに
- 2 なりにけむと・いつそやのたまはせし・よこそさた
なりにけんと・いつそやの／たまはせし・世こそさた
- 3 めなき・物なれなと・いとおよすけのたまふ・ふい
めなき・ものなれなと・いと・およすけのたまふ・ふい不意
- 4 かくてもものし侍なり・よの中といふ物は・さのみこ
にかくて物し侍なり・世の中といふ物は・さのみこ
- 5 そいまもむかしもさたまりたる事侍らね・なかに
そ・いまもむかしも／さたまりたる事侍らね・なかに
- 6 ついても・女のすぐせはいとうかひたるなむ・あはれ
ついても・女の／すぐせはいと・うみどむかひたるなん・あはれ
- 7 に侍けるなときこえさす・いよのすけはかしつくや
に侍ける／なときこえさす・いよのすけは・かしつくや
- 8 きみと思らむな・いか、はわたくしのしうとこそは
きみ／と・思らむな・いか、はわたくしのしうとこそは
- 9 思て侍めるを・すき／しき事となにかしよりは
思て／侍めるを・すき／しき事と・なにかしよりは
- 10 しめてうけひき侍らすなど申すさりと
し／めて・うけひき侍らすなど申す・さりと

【八紙】(三六オ〜三六ウ)

- 1 もまうとたちのつき／しく・いまめきたらむに・お
もまう／とたちのつき／しく・いまめきたらんに・お
- 2 ろしたてむやは・あのすけはいとよしありて・けし
ろし／たてんやは・あのすけはいと・よしありて・けし／
- 3 きはめるをや・など・物かたりし給て・いつかたにそ・
きはめるをや・など・ものかたりし給て・いつかた／にそ・
- 4 みなしもやにおろし侍つるを・えやまかりうつろ
みなしもやにおろし侍つるを・えやまか／りうつろ
- 5 ひあへさらんときこゆ・ゑひす、みて・みな人／すのこ
ひあへさらんときこゆ・ゑひす、みて・／みな人／すのこ
- 6 にふししつまりぬ・きみはとけてもねられ給はず・
にふししつまりぬ・きみはとけて／もねられたまはず
- 7 いたつらふしとおほさるゝに・御めさめて・このきた
いたつらふしとおほさるゝ、／に・御めさめて・このきた
- 8 のさうしのあなたに・人のけはひするを・こなたや
のさうしのあなたに・／人のけはひするを・こなたや
- 9 かくいふ人のかくれたるくまならむ・あはれやと・御
かくいふ人のかく／れたるくまならん・あはれやと・御
- 10 心と、めてやをらおきてたちき、給へは・ありつる
心と、めて・や／をら・おきてたちき、たまへは・ありつる

【九紙】（三六ウ〜三七オ）

- 1 このこ糸にて・ものけたまはる・いつくにおはします
この／こ糸にて・ものけたまはる。いつくにおはします／
- 2 そと・かれたるこ糸のおかしきにていへは・こゝにぞ
そと・かれたるこ糸のおかしきにていへは・こゝに／そ
- 3 ふしたる・まらうとは・ねたまひぬるか・いかにち
ふしたる・まらうとは・ねたまひぬるか・いかにち
- 4 かゝらむと思つるを・されと・けとをかりけりと・ね
かゝらむと思つるを・されと・けとをかりけりと・ね
- 5 たるこ糸のしとけなき・いとようにかよひたれば・
たるこ糸のしとけなき・いと・よう・に／かよひたれば・
- 6 いもうとゝきゝたまうつ・ひさしにぞ・おほとの
いもうとゝきゝゝたまうつ・ひさし／にぞ・おほとの
- 7 こもへりぬるおとにきゝつる・御さまをみてまつり
こもりぬる。をとにきゝつる・御さま／をみてまつり
- 8 つる・けにこそめてたかりけれと・みそかにいふ・ひる
つる・けにこそめてたかりけれと・みそかにいふ・ひる
- 9 ならましかはのそきてみためまつりてまじと・ね
ならましかはのそきて／みためまつりてまじと・ね
- 10 ふたけにいひてかほひきいれつるこ糸す・ねたう
ふたけにいひてかほ／ひきいれつるこ糸す。ねたう・

【一〇紙】（三七オ〜三七ウ）

- 1 心と、めても・とひきけかしと・あいなくおほすまろは
こゝろと、めても・／とひきけかしと・あいなく・おほす。まろは
- 2 はしにね侍らむ・あなぐらとて・火か、けなとすへし
はしに／ね侍らん・あなぐらとて・火か、けなとすへし。／
- 3 女きみは・たゝこのさうしくちすこしちかひたる
女きみは・たゝこのさうしくちすこしちかひ／たる
- 4 ほとにぞふしたるへき・中将のきみはいつ／くにぞ・
ほとにぞふしたるへき。中将のきみはいつ／くにぞ・
- 5 人けとをきこゝちして物おそろしといふなれば・
人けとをきこゝちして物おそろし／といふなれば・
- 6 なけしのしもに人／ふしていらへすなり・しもに
なけしのしもに人／ふしていらへすなり。しもに
- 7 なむゆにおりてたゝいまゝうのほると侍つといふ・
なん・ゆにおりてたゝいまま／うのほると侍つといふ・
- 8 みなしつまりにたるけはひなれば・かけかねを
みなしつまりにたる・／けはひなれば・かけかねを
- 9 こゝろみにひきあけたまへれば・そなたよりはさゝ
こゝろみにひきあ／けたまへれば・あなたよりはさゝ
- 10 さりけり・き丁をさうしくちにはたてゝ・からひつ
さりけり。き丁／をさうしくちにはたてゝ・からひつ

【一紙】(三七ウ)三八オ)

- 1 めく物など、りおきたれは・みたりかはしきな
めく物など／とりをきたれは・みたりかはしきな
- 2 かをわけいりたまふ・けはひしつるほどによりたまへ
かをわけいり／たまふ、けはひしつるほどによりたまへ
- 3 れは・たゝ・ひとりいとさゝやかにてふしたり・火は
れは・／たゝ・ひとり・いと・さゝ、やかにてふしたり、火は
- 4 ほのくらきに・なまわつらはしけれと・うへなる
ほのくらきに・なまわつらはしけれと・うへなる
- 5 きぬをしやるまで・もとめつる人とおもへり・中将
きぬ・をしやるまで・もとめつる人とおもへり、中将／
- 6 めしつれはなむ・人しれぬ思のしるしある心地
めしつれはなん・人しれぬ思のしるしある心地／
- 7 してとのたまふを・ともかくも思わかれす・物に
してとの給を・ともかくも思わかれす・物に
- 8 おぞはるゝこゝちして・やと・をひゆれと・かほにき
をぞ／はるゝこゝちして・やと・をひゆれと・かほにき
- 9 ぬのさはりて・おとにもたてす・うちつけにふか、ら
ぬの／さはりて・をとにもたてす、うちつけにふかから
- 10 ぬ心のほど、み給らむ・ことほりなれと・しころ
ぬこゝろのほど、み給覽・ことほりなれと・とし／ころ

【二紙】(三八オ)三八ウ)

- 1 思わたる心のうちも・きこえしらせむとてなむ・かゝる
思わたるこゝろのうちも・きこえしらせん／とてなん・かゝる・
- 2 おりをまちいてたるも・さらにあさうはあらしと
おりをまちいてたるも・さらにあさ／うはあらしと
- 3 思なし給へと・いとやはらかにの給て・おにかみもあら
思なしたまへと・いとやはらかに・／のたまひて・おにかみもあら
- 4 たつましき御けはひなれは・はしたなくこゝに人
たつましき御／けはひなれは・はしたなく・こゝに人
- 5 とも・えのゝしらす・心地はたわひしく・あるましき事
とも・えのゝしらす、こゝち・はた・わひしく・あるましき／事
- 6 とおもへは・あさましう人たかへにこそ待めれといふ
とおへは・あさましく・人たかへにこそ待めれといふ
- 7 も・いきのしたなり・きえまとへるけしきいと心くる
も・いきのしたなり、きえまとへるけし／き・いと・こゝろくる
- 8 しくらうたけなれは・おかしとみたまひてたかふ
しくらうたけなれは・おかし／とみたまひて・たかふ
- 9 へくもあらぬ心のしるへを・おもはずにおほめい
へくもあらぬこゝろのしる／へを・おもはずにおほめい
- 10 たまふかな・すきかましきさまには・よにみえたてま
たまふかな、すきかまし／きさまには・よにみえたてま

【二三紙】（三八ウ〜三九オ）

- 1 つらし思事すこしをそきこゆへきとて・いと
つらし。思事す／こしをそきこゆへきとて・いと
- 2 さ、やかなれは・かきいたきてさうしのもといてた
さ、やかなれは・かきいたきてさうしのもといてた
- 3 まふほどにぞもとめつる中将たつ人きあひた
まふほどにぞ・／もとめつる中将たつ人きあひた
- 4 る・や、とのたまふに・あやしめてさくりよりたる
る。や、との給／に・あやしめてさくりよりたる
- 5 に・いみしくほひみちて・かほにもくゆりかゝる心
に・いみしく／ほひみちて・かほにもくゆりかゝる心、
- 6 地するに・思よりぬ・あさましうこはいかなる事
ちする／に・思よりぬ。あさましう・こは・いかなる事
- 7 そと・思まとはるれと・きこえむかたなし・なみ／の
そと・お／もひまとはるれと・きこえむかたなし。なみ／の
- 8 人ならはこそ・あらゝかにもひきかなくらめ・それ
人／ならはこそ・あらゝかにもひきかなくらめ・それ
- 9 たに人のあまたしらむはいかゝあらむ・心もさはき
たに／人のあまたしらむはいかゝあらむ。心もさはき
- 10 て・したひきたれと・とうもなくて・おくなるおまし
て・／したひきたれと・とうもなくて・おくなるおまし

*一〇行目の尾州家本、「とう」の「と」の左下に朱墨で二つ点が付される。

【二四紙】（三九オ〜三九ウ）

- 1 にいらたまひぬ・さうしをひきたてて・あかつ
にいらたまひぬ。さうしをひきたてて・／あかつ
- 2 きにむかへにもせよとのたまへは・この人のおもふらん
きにむかへにもせよとのたまへは・この人のおもふらん
- 3 事さへしぬはかりわりなきに・なかるゝ、まであせに
事さへ・しぬはかりわりなきに・なかるゝ、／まであせに
- 4 なりていとなやましけなる・いとをしけれど・なよやか
なりて・いと・なやましけなる・いと／をしけれど・なよやか
- 5 やと・れいのいつくよりとうてたまふ事のはにかあら
やと・れいのいつくよりとう／てたまふ事のはにかあら
- 6 む・あはれしらはかり・なさけ／しくのたまひつく
む・あはれしらはかり・／なさけ／しくのたまひつく
- 7 すへかめれと・なをいとあさましきに・うつゝともおほえ
すへかめれと・なを・／いと・あさましきに・うつゝともおほえ
- 8 す・かすならぬ身なからも・いとかく・おほしくたしける
す・かすならぬ／身なからも・いと・かく・おほしくたしける・
- 9 御心はえのほともいか・あさくは思たまへられさら
御心はえ／のほともいか・あさくは思たまへられさら
- 10 む・いとかがやうなるきは、きはとこそ侍なれとて・かく
ん。いと・か／やうなるきは、きはとこそ侍なれとて・かく

【一五紙】(三九ウ〜四〇オ)

- 1 をしたち給へるを・ふかくなさけなくうしと思
をし／たち給へるを・ふかくなさけなく・うしとおも／ひ
- 2 いらたるさまも・けにいとをしく・心はつかしきけはひ
いらたるさまも・けに・いとをしく・こゝろはつか／しきけはひ
- 3 なれは・そのきはくを・またしらぬうひ事そや・中く
なれは・そのきはくを・またしら／ぬうひ事^{はしめたる事}そや・なかく
- 4 をしなへたるつらに思なし給へるなむ・うたてあ
をしなへたるつらに思／なしたまへるなん・うたてあ
- 5 りける・おのつからき、給やうもあらむ・あなか
りける・をのつか／ら・き、たまふやうもあらん・あなか
- 6 ちなるすき心はさらにならぬを・さるへきにや・
ちなるすき／こゝろはさらにならぬを・さるへきにや・
- 7 けにかくあはめられたてまつるも・ことはりなる
けに・かく／あはめられたてまつるも・ことはりなる
- 8 心まとひを・身つからも・あやしきまでなむなど・
こゝろ／まとひを・みつからも・あやしきまでなむなど・
- 9 まめたちてよろつにのたまへと・いとたくひな
ま／めたちてよろつにのたまへと・いと・たくひな
- 10 き御ありさまの・いよ／うちとけきこえむ事
き／御ありさまの・いよ／うちとけきこえん事・

*三行目尾州家本、傍記の「はじめたる事」は料紙より白い紙に書かれ、貼られている。

【一六紙】(四〇オ〜四〇ウ)

- 1 わひしければ・すくよかに心つきなしとはみえた
わひ／しければ・すくよかにこゝろつきなしとはみえた
- 2 てまつるとも・さるかたのいふかひなきにて・すく
て／まつるとも・さるかたのいふかひなきにて・すく
- 3 してむと思て・つれなくのみもてなしたり・人
し／てむと・思てつれなくのみもてなしたり・人／／
- 4 からのたをやきたるに・つよき心をしめてくはへ
からのたをやきたるに・つよき心をしめてく／はへ
- 5 たれは・なよたけの心地してさすかにおるへくもあ
たれは・なよたけのこゝろちしてさすかにおるへくもあ
- 6 らす・まことに心やましくて・あなかななる御心
らす・まことに心やましくて・あなかななる御こゝろ
- 7 はえを・いふかたなしとおもひてなくさまなど・いと
はえを・いふかたなしと思て・なく／さまなど・いと・
- 8 あはれなり心くるしくあはれと・みさらましかは・くち
あはれなり、心くるしくあれと／みさらましかは・くち
- 9 をしからましとおほす・なくさめかたくうしと
をしからましとおほす、なく／さめかたく・うしと
- 10 おもひたれは・などいとかくうとましき・物にしも
おもひたれは・など・いと・かく・うとましき・物にしも

【一七紙】（四〇ウ〜四一オ）

- 1 おほすへき・おほえなきさまなるしもこそ・ちき
おほすへき・おほえな／きさまなるしもこそ・ちき
- 2 りあるとは・思たまはめ・むけによを思しらぬやう
りあるとは・おもひ／たまはめ・むけによをおもひしらぬやう
- 3 におほ、れたまふなむ・いとつらきとらみられて・
におほ／ほれたまふなん・いとつらきとらみられて・／／
- 4 いとかくうき身のほどの・さたまらぬありしなから
いと・かく・うき身のほどの・さたまらぬ・／ありしな／から
- 5 の身にて・かゝる御心はへをみましかは・あるまじき
の身にて・かゝる御こゝろはへをみましかは・／あるまじき・
- 6 わかたのみにても・又みなをし給のちせをもやと
わかたのみにても・又・みなをし給／のちせをもやと
- 7 思給へなくさめましを・いとかくうかりけるうき
思給へなくさめましを・いと・かく・／うかりける・うき
- 8 ねのほどを思侍に・たくひなくおもひたまへまと
ねのほどを思侍に・たくひなく／おもひたまへまと
- 9 はるゝなり・よしいまはみきとなかけそとて・思
はるゝなり・／よしいまはみき／となかけそとて・おも
- 10 へるさまけに・いと事はりなりおろかならず・ち
へるさまけに・いと・ことはり／なり・をろかならず・ち

【一八紙】（四一オ〜四一ウ）

- 1 きりなくさめ給事おほかるへし・とりもなき
きりなくさめ給事・／おほかるへし・とりもなき
- 2 ぬ・人／おきいて、いといたなかりける夜かな・
ぬ・人／／おきいて、いと・／いたなかりける夜かな・
- 3 御くるまひきいてよなどいふなり・かみもいてきて・
御くるまひきいてよ／などいふなり・かみもいてきて・
- 4 女などの御かた、かへこそ・よにかくいそかせ給へきかは
女などの御かた、／かへこそ・よにかくいそかせ給へきかは
- 5 なといふ・きみは・又かやうのついであらむ事も・いとかな
なといふ・き／みは・又・かやうのついであらむ事も・いとかな
- 6 たく・さしはへては・いかてか・御ふみなどもかよはむ・
たく・／さしはへては・いかてか・御ふみなどもかよはむ・
- 7 事のいとわりなきをおほすに・いとむねいたし・おく
事／のいと・わりなきをおほすに・いと・むねいたし・おく／
- 8 の中将も・いてきて・いとくるしかれば・ゆるしたまふて
の中将も・いてきて・いと・くるしかれば・ゆるした／まふて
- 9 も・又ひきと、めたまひつ、いかてかきこゆへき・よに
も・又・ひきと、めたまひつ、い／かてか・きこ／ゆへき・よに
- 10 しらぬ御心のつらさも・あはれも・あさからぬよの思
しらぬ御こゝろのつらさも・あはれ／も・あさからぬよの思

【一九紙】(四一ウ〜四二オ)

- 1 いては・さま／＼めつらかなるへきためしかなとて・う
いては・さま／＼めつらかなる／へきためしかなとて・う
- 2 ちなげき給御けしき・いとなまめきたり・とり
ちなげき給御けしき・いとなまめきたり・とり
- 3 も・しは／＼なくに・心あはた、しくて
も・しは／＼なくに・こ、ろ／あはた、しくて／
- 4 つれなきをうらみもはてぬしの、めにとり
つれなきをうらみもはてぬしの、めにとり
- 5 あへぬまでおとろかすらむ・をむな身のありさま
あへぬまでおとろかすらん、をんな・身の／ありさま
- 6 を思にも・いとつきなく・まはゆき心ちして・めてたき
を思にも・いと・つきなく・まはゆきこ／こちして・めてたき・
- 7 御もてなしも・なにともおほえす・つねはいとはし
御もてなしも・なにとも／おほえす、つねはいとはし
- 8 う心つきなしと・思あなつらる、いよのかたのみ
うこ、ろつきなしと／おもひあなつらる、いよのかたのみ
- 9 思やられて・ゆめにやみゆらむと・そらおそろしく
おもひやられ／て・ゆめにやみゆらんと・そらおそろしく
- 10 つ、まし
つ、ま／し

【二〇紙】(四二オ〜四二ウ)

- 1 身のうさをなけくにあかてあくるよはとり
身のうさをなけくにあかてあくるよは／とり
- 2 かさねてそねもなけれける・こと、あかうなれ
かさねてそねもなけれける、こと、あかうなれ
- 3 は・さうしくちまておくりし給・うちも・とも・人さは
は・さうしくちまてをくりし給、うちも、／とも・人さは
- 4 かしう・あはた、しければ・ひきたて、わかれ給ほと・
かしう・あはた、しければ・ひきたたて、わかれ給ほと・
- 5 心ほそくへたつるせきのとみえたり・御なをしなと
こ、ろほそく、へたつるせきの／とみえたり、御なをしなと
- 6 き給て・みなみのかうらむに・しはしうちなかめ
き給て・みなみの／かうらんに・しはしうちなかめ
- 7 給・にしおもてのかうしいそきあけて・人／＼のそく
たまふ、にし／をもてのかうし、いそきあけて・人／＼のそく
- 8 へかめり・すのこのなかのほとにたてたる・こさうし
へか／めり、すのこのなかのほとにたてたる、こさうし／
- 9 のかみより・ほのかにみえ給へる御ありさまを・
のかみより・ほのかにみえ給へる御ありさまを・
- 10 身にしむはかり思へるすき心ともあへかめり・
身／＼にしむはかりおもへるすきこ、ろともあへかめり、

【二一紙】（四二ウ～四三オ）

- 1 月はありあけにてひかりおさまれる物から・かほけ
月はありあけにてひかりおさまれるものから・かほけ
- 2 さやかにみえて・中／＼おかしきあけほのなり・なに
さやかにみえて・中／＼おかしきあけほのなり・なに
- 3 心もなきそらのけしきも・た、みる人から・ところから
こゝろもなきそらのけしきも・た、／＼みる人から・ところから
- 4 のえむにも・すこくもみゆるなりけり・人しれぬ御心
の・えんにも・すこくも／みゆるなりけり・人しれぬ御こゝろ
- 5 には・いとむねいたく・事つてやらむすかたになき
には・いと・むね／いたく・事つてやらんすかたになき
- 6 を・かへりみかちにていて給ぬ・殿にかへり給てもとみ
を・か／へりみかちにていて給ぬ・殿にかへりたまひて／も・とみ
- 7 にまところまれ給はず・又あひみるへきかたなきをあはれ
にまところまれました・又・あひみるへ／きかたなきを・あはれ
- 8 にかの人のおもふらむことはましていかならむと心く
にかの人のおもふらんことは・／ましていかならむとこゝろく
- 9 るしくおほしやるすくれたる事はなけれど・め
るしく・おほしやる・すくれたる事はなけれど・め
- 10 やすくもてつけてもありつる・なかのしなかな・くま
やすく・もてつけて／もありつる・なかのしなかな・くま

【二二紙】（四三オ～四三ウ）

- 1 なくみあつめたる人のいひし事は・けにとお
なく・みあつ／めたる人のいひし事は・けにとお
- 2 ほしあはせられけり・このほとはおほいどののみに
ほしあはせ／られけり・このほとはおほい殿にのみ
- 3 おはします・なをいとうちたえておもふらむ事の
おはします・／なを・いと・うちたえておもふらん事の
- 4 いとおしく御心にかゝりてくるしくおほしわひて・
いとをし／く御こゝろにかゝりてくるしくおほしわひて・／
- 5 きのかみをめしたり・かのありし〈権〉中納言のこは・え
きのかみをめしたり・かのありし〈権〉中納言のこは・／え
- 6 させてむや・らうたけにみえしを・身にちかく・いひ
させてむや・らうたけにみえしを・身にち／かく・いひ
- 7 まつはず人にせむ・うへにも・われたてまつらむとのたま
まつはず人にせん・うへにも・われた／てまつらむとのたま
- 8 へは・いとかしこきおほせ事に侍りかのあねなる人
へは・いと・かしこきおほせ／事に侍り・かのあねなる人
- 9 に・のたまへ侍らむと申にも・むねつふれておもほ
に・のたまへ侍らん／と申にも・むねつふれておもほ
- 10 せと・そのあねきみは・朝臣のおとうとや・もたるさも
せと・そのあね／きみは・朝臣のおとうとやもたる・さも

【二三紙】(四三ウ〜四四オ)

- 1 侍らすこのふたとせはかりそかくてもし侍れと
侍らす。このふたとせはかりそかくてもし侍れと。／
- 2 おやのおきてに・たかへりと・思なけきて・心ゆかぬやうに
おやのをきてに・たかへりと・おもひなけきて。／こゝろゆかぬやうに
- 3 なむ・きゝたまふるときこゆ・あはれの事や・よろしく
なん・きゝたまふるときこゆ。あはれの事や・よろしく
- 4 きこえし人ぞかし・まことによしやとのたまへは・こ
きこえし人ぞかし。まことによしやとのたまへは。こ
- 5 ともなく侍へかめり・もてはなれて・うとくしく侍れは・
ともなく侍るへかめり。もてはなれて・うとくしく侍れは。
- 6 よのたとひにて・むつひ侍らすと申・さて五六日あ
よのたとひにて・むつひ侍らすと申。さて。／五六日あ
- 7 りて・このこゝゐてまいれり・こまやかにおかしとなけ
りて。このこゝゐてまいれり。こまやかにおかしとなけ
- 8 れと・あて人とみえたり・めしいれて・いとなつかし
れと・あて人とみえたり。めしいれて。いと・なつかし
- 9 くかたらひ給・わらは心地に・いとめてたくうれしと
くかたらひ給。わらは心地に・いとめてたくうれしと
- 10 おもふ・いもうとのきみの事も・くはしくとひき、給・
おもふ。いもうとのきみの事も。くはしくとひき、給。

【二四紙】(四四オ〜四四ウ)

- 1 さるへき事はいらへきこえなとして・はつかしけに・
さるへき事はいらへきこえなとして。はつかしけに。
- 2 しつまりたれは・うちいてにく、おほせと・いとよく
しつまりたれは。うちいてにく、おほせと・いとよく
- 3 いひしらせ給。かゝる事こそはと・ほのこゝろうるも・思の
いひしらせ給。かゝる事こそはと・ほのこゝろうるも・思の
- 4 ほかなれと・おさな心に・ふかくしもたとらす御
ほかなれと・おさな心に・ふかくしもたとらす。御
- 5 ふみを・もてきたれは・女あさましきに・なみたもいて
ふみを・もてきたれは。女あさましきに・なみたもいて
- 6 きぬ・このこのおもふらむ事も・はしたなくて・さす
きぬ。／このこのおもふらむ事も・はしたなくて・さす
- 7 かに御ふみを・おもかくしにひろけたり・いとおほ
かに御ふみを・おもかくしにひろけたり。いと・おほ
- 8 くて
くて
- 9 みしゆめをあふせありやとなけくまにめさへ
みしゆめをあふせありやとなけくまにめさへ
- 10 あはてそころもへにける。ぬるよなけれはなとめも
あはてそころもへにける。ぬる夜なけれはなとめも

【二五紙】（四四ウ～四五オ）

- 1 およはぬ御かきさまなれと・みもいれられず・めも・きり
をよはぬ御かきさまなれと・みも／いれられず・めもきり
- 2 てこころえぬすくせ・うちそへりける身を・思つ、け
てこころえぬすくせ・うち／そへりける身を・思つ、け
- 3 てふし給へり・又の日こ君めしたれはまいるとて・
てふしたまへり・又の日こ君めしたれは・まいるとて・
- 4 御返こふ・かゝる御ふみみるへき人もなしと・きこえ
御返こふ／かゝる御ふみみるへき人もなしと・きこえ
- 5 よといへはうちゑみてたかふへくものたまはさりしを・
よといへは・／うちゑみてたかふへくものたまはさりしを・／
- 6 いかゝさはきこえむといふに・心やましく・のこりなくの
いかゝさはきこえんといふに・こゝろやましく・のこり／なくの
- 7 たまひしらせてけると思に・つらき事かきりなし・いて
たまひしらせてけると思に・つらきこと／かきりなし・いて
- 8 およすけたる事はいはぬものぞ・さはなままり給そと・
およすけたる事はいはぬもの／ぞ・さはなままり給そと・
- 9 むつかられて・めすには・いかてかとてまいりぬ・きのかみ
むつかられて・めすには／いかてかとてまいりぬ・きのかみ・
- 10 すき・心にこのまゝは、のありさまを・あたらしき
すき心にこのまゝ、／は、のありさまを・あたらしき

【二六紙】（四五オ～四五ウ）

- 1 ものに・思てついそうしよる・心なれは・このこを・もて
物におもひて・／ついそうしよる・こゝろなれは・このこを・もて
- 2 かしつきぬてありく・きみめしよせて・きのふも
かし／つきぬてありく・きみめしよせて・きのふも
- 3 まちくらし、を・なをあひおもふましきなめり
まち／くらし、を・なをあひおもふましきなめり
- 4 と・ゑむし給へは・かほうちあかめてゐたり・いつらと
と・／ゑんし給へは・かほうちあかめてゐたり・いつら／と
- 5 のたまふに・しかくと申に・いふかひなの事や・あさ
のたまふに・しかくと申に・いふかひなの事／や・あさ
- 6 ましとて・又御ふみたまへり・あこはしらしな・その
ましとて・又・御ふみたまへり・あこはしらし／しな・その
- 7 いよのおきなよりさきに・みし人ぞ・されとたの
いよのおきなよりさきに・みし人ぞ・／されとたの
- 8 もしけなく・くひほそなりとてふつ、かなる・うし
もしけなく・くひほそなりとて／ふつ、かなる・うし
- 9 ろみまうけて・かくあなつり給めり・さりとともあ
ろみまうけて・かくあなつり／たまふめり・さりとともあ
- 10 こはわかこにてをあれよ・かのたのもし人は・ゆく
こはわかこにてをあれ／よ・かのたのもし人は・ゆく

【二七紙】(四五ウ〜四六オ)

- 1 さきみしか、らんなどの給へは・さもやありけむい
さきみしからん／などのたまへは・さもやありけんい
- 2 みしかりける事かなと思へるを・おかしとおほす・
みしかりける／事かなとおもへるを・おかしとおほす・
- 3 このこをまつはし給て・うちにもゐてまいりなど
このこをま／つはし給て・うちにもゐてまいりなど
- 4 し給・わかみくしけとのに・のたまひてさうそく
し給 わかみくしけとのに・のたまひてさうそく／
- 5 などもせさせ・まことにおやめきて・いたしたてさせ
などもせさせ・まことにおやめきて・いたしたてさせ
- 6 給・御ふみはつねにたまはりなど・このこもいととおさ
給 御ふみはつねにたまはりなど・このこもいと・おさ
- 7 なし・心よりほかにちりもせは・かろくしき名さへ
なし・こゝろよりほかにちりもせは・かろくしき名さへ
- 8 とりそへむ・身のおほえを・いとつきなかるへく思へは・
とりそへん・身のおほえを・いと・つきなかるへく思へは・
- 9 めてたきことも・わか身からこそと思てうちとけ
めてたきことも・わか／身からこそと思て・うちとけ
- 10 たる御いらへもきこえず・ほのかなりし御け
たる御いらへもき／こえず・ほのかなりし・御け

【二八紙】(四六オ〜四六ウ)

- 1 はひありさまは・けによになへてやはと思いてきこえ
はひ・ありさまは・けに・よに・なへてやはと思いてきこえ
- 2 ぬにしもあらねとおかしきさまをみえたてまつ
ぬにしも／あらねと・おかしきさまをみえたてまつ
- 3 りても・なに、なるへき身そと思かへすなりけり・
りて／も・なに、なるへき身そとおもひかへすなりけり・
- 4 きみはおほしをこたる時のまもなく・心くるしくも・
きみはおほしをこたる時のまもなく・こゝろ／くるしくも・
- 5 こひしくも・おほしいつ・思へりしけしきなどの
こひしくも・おほしいつ・おもへり／しけしきなどの
- 6 いとをしきも・はるけんかたなくおほしわたる・か
いとをしきも・はるけんかた／なくおほしわたる・か
- 7 るかるしくはいまきれたちより給はむも・人めし
る／しく・はいまきれた／ちよりたまはんも・人めし
- 8 けからむところに・ひむなきふるまひやあらはれむ・人
けからむところに・／ひんなきふるまひやあらはれん・人
- 9 のためもとをしとおほしわつらふ・れいのうちに日かすへ
のためも／いとをしとおほしわつらふ・れいのうちに日かすへ
- 10 たまふころ・さるへきかたのいみまちいてたまふて・にはかに
まか
たまふころ・さるへきかたのいみまちいて／たまふて・にはかにまか

【二九紙】（四六ウ〜四七オ）

- 1 てたまふまねして・みちのほどよりおはしましたり
て給まねして・みちのほど／／よりおはしましたり。
- 2 きのかみおとろきてやり水のめむほくとよろこひかし
きのかみ・おとろきてや／り水のめほくとよろこひかし
- 3 こまる・こ君には・ひるつかたよりかくなんと思よれる
こまる・こ君には・／ひるつかたより・かくなん・おもひよれる
- 4 とのたまひちきれり・あけくれまづはしならし給
とのた／まひちきれり・あけくれ・まづはし・ならし給／
- 5 ければ・こよひもまつめしいてたまへり・女もさる
ければ・こよひもまつめしいてたまへり・女も／さる
- 6 御せうそこのありけるにおほしたはかりつらむほど・
御せうそこのありけるに・おほしたはかりつらむほど・
- 7 あさましう「し」も思なされねと・さりとてうちとけ人
あさましうしもおもひなされねと・さりとてうちとけ人
- 8 けなきありさまを・みえたてまつりはてんもあち
けなきありさまを・みえたて／まつりはてんもあち
- 9 きなく・ゆめのやうにて・すきにしなけきを・又や
きなく・ゆめのやうにて・す／きにしなけきを・又・や
- 10 くはへむとおもひみたれて・なをさまでまちとり
くはへんとおもひみたれて・／なを・さまでまちとり

【三〇紙】（四七オ〜四七ウ）

- 1 きこえむ事はいとまはゆければ・へこ君かいてぬるほどにいと
けち）かたはらいたし・な
きこえんことは・いと・まはゆ／／ければ・こ君かいてぬるほどに・
いと・けちかければ・かた／はらいたし・な
- 2 やましければ・しのひてうちた、かせなとせむに・
やましければ・しのひてうち／た、かせなとせむに・
- 3 人はなれてをとて・わたののに中将といひしか・つほね
人はなれてをとて・わた／ののに中将といひしか・つほね
- 4 したるかくれにうつろひぬ・さる心して・人とか
したるかくれにう／つろひぬ・さる心して・人とか
- 5 しつめて御せうそこあれと・こきみえたつねあ
しつめて・御せ／うそこあれと・こ君えたつねあ
- 6 はす・よろつのとこもとめありきて・わた殿に
はす・よろつのとこもとめありきて・わた殿に
- 7 わけいりて・からうしてたとりきたり・いとあさ
わけいりて・か／らうしてたとりきたり・いと・あさ
- 8 ましくつらしと思て・いかにかひなしとおほさむ
ましくつらしと思て・いかにかひなしとおほさむ
- 9 となきぬはかりにいへは・かくけしからぬ心はへは・つ
と・なき／ぬはかりにいへは・かくけしからぬ心はへは・つ／
- 10 かふものか・おさなき人のか、る事いひつたふる
かふものか・おさなき人のか、る事いひつたふる／／

【三一紙】(四七ウ〜四八オ)

- 1 は・いみしくいむなるものをといひおとして・心ちな
は・いみしく・いむなるものをといひをとして・こゝち・／な
- 2 やましければ・人くさけす・おさへさせてなむとき
やましければ・人く^{不_通}さけす・をさへさせてな／とき
- 3 こえさせよ・あやしとたれくもみるらむといひはな
こえさせよ・あやしとたれくもみるらん／といひはな
- 4 ちて・心のうちには・いとかくしなさまらぬ身のおほ
ちて・こゝろのうちに・いと・かく・しな／さまらぬ身のおほ
- 5 えならて・すきにしおやの御けはひとまれるふ
えならて・すきにしおやの御けはひとまれるふ
- 6 るさとなから・たまさかにもまちつけたてまつらむは・
るさとなから・たまさかにもまちつけたてまつらんは・
- 7 おかしうもあはれにも思しらしぬへき御ありさ
おかしうもあはれにも・思しらしぬへき御ありさ
- 8 まをしめておもひしらぬかほにみけつも・いかに
まを・しぬ／ておもひしらぬかほにみけつも・いかに
- 9 ほとしらぬやうにおほすらむと・心なからもうれたく・
ほとしらぬやうにおほすらんと・こゝろなからもうれぬた／く・
- 10 さすかにおもひみたる・とてもかくてもいまはいふか
さすかにおもひみたる・とてもかくても・いまは／いふか

【三二紙】(四八ウ〜四九オ)

- 1 ひなきすぐせなりければ・むしむに心つきな
ひなき・すぐせなりければ・むしんに心／つきな
- 2 くてやみなむとおもひはてたり・きみはいかにたは
くて・やみなむとおもひはてたり・きみはいかにたは
- 3 かりなさむと・またおさなきをうしろめたくまぬ
かりなさんと・またおさなきを／うしろめたく
- 4 まちふしたまへるに・ふようなるよしをきこ
まちふしたまへるに・ふよう／なるよしをきこ
- 5 ゆれは・あさましくめつらかなりける心のほとかな・身
ゆれは・あさましく・めつら／かなりけるこゝろのほとかな・身
- 6 もはつかしくこそおもひなりぬれとて・いとおしき
もいと・はつか／しくこそおもひなりぬれとて・いとをしき／
- 7 御けしきなり・とはかり物ものたまはず・いたくうめ
御けしきなり・とはかり物ものたまはず・いたくうめ
- 8 きて・うしとおほしたり
きて・うしとおほしたり
- 9 は、き、のこゝろをしらてそのはらのみち
は、き、のこゝろをしらてそのはらの／みち
- 10 にあやなくまとひぬるかな・きこえむかたこそな
にあやなくまとひぬるかな・きこえん／かたこそな

【三三紙】（四九オ～四九ウ）

- 1 けれど のたまへり・女もさすかにまどろまれさりければ
けれど・のたまへり・女もさすか／にまどろまれさりければ
- 2 かすならぬふせやにおふるなのうさに
かすならぬふせやにおふるなのうさに／
- 3 あるにもあらずきゆるは、き、ときこえたり・
あるにもあらずきゆるは、き、ときこえたり・
あるにもあらずきゆるは、き、ときこえ／たり。
- 4 こ君いとく〈を〉しさに・ねふたくもあらてまとひあり
こ君・いと・いとをしさに・ねふたくも／あらてまとひあり
- 5 くを・人あやしとみるらむと・女はわひ給・れいの人く
くを・人あやしとみる／らんと・女はわひ給・れいの人く
- 6 はいきたなきに・ひと、ころはす、ろにすさまし
はいきたなきに／ひと、ころはす、ろにすさまし
- 7 くおほしつ、けらるれと・人に、ぬ心さまの・なをき
く・おほし／つ、けらるれと・人ににぬ心さまの・なを・き
- 8 えすたちのほりけるとねたくか、るにつけてこそ・
えす・／たちのほりけると・ねたく・か、るにつけて／こそ・
- 9 心もとまれと・かつはおほしなから・めさましくつら
こ、ろもとまれと・かつはおほしなから・／めさましくつら
- 10 ければ・さはれとおほせとも・さもおほしはつましく
ければ・さはれとおほせと／も・さも・おほしはつましく

【三四紙】（四九ウ）

- 1 て・かくれたらむところに・なをみていけとのたま
て・かくれたらん／ところに・なをみていけとのたま
- 2 へと・いとむつかしけに・さしめくらしして・人あまた侍
へと・いとむつ／かしけに・さしめくらしして・人あまた侍
- 3 めれは・かしこけにときこゆ・いとく〈お〉しとおもへり・
よ
め／れは・かしこけにときこゆ・いと・いとおしと／おもへり、よ
- 4 しあこけになすてそとのたまひて・御かたはらに
しあこけになすてそとのた／まひて・御かたはらに
- 5 ふせたまへりいと・なつかしき御ありさまを
ふせたまへり、いと・なつかしき御ありさまを
- 6 うれしくめてたしと思たれば・つれなき人より
うれしくめ／てたしと思たれば・つれなき人より
- 7 は中くあはれによそへおほさる
は・中く／あはれによそへおほさる

三、学習院本と尾州家本の比較

学習院本と尾州家本を比較する^①。まず、学習院本と尾州家本の最大の違いは、朱点である。尾州家本には、行の中央に点を打つ^②と、文字の右下に点を打つ^③の二種類があるが、学習院本には、前者しかない。また、朱点の数そのものが、学習院本よりも尾州家本の方がはるかに多い。その他、特徴的だと思われる違いを下に掲げる。これを見ると、学習院本は、尾州家本に比べ、「む」の表記が圧倒的に多いこと、「心」「思」は漢字で書く傾向が強いことがわかる。表記上の特徴は、他の「伝為家筆本」を見るときの一つの目安になるだろう。以下に、補入・ミセケチのある

表一 学習院本と尾州家本の比較

学習院本	尾州家本	該当数
中央の朱点	右下の朱点	三〇四
中央の朱点	ナシ	六一
朱点ナシ	中央の朱点	五五一
朱点ナシ	右下の朱点	二七
む	ん	一二六
ん	む	二〇
給(ふ)	たま(ふ)	一一二
たま(ふ)	給(ふ)	一〇
物	もの	八
もの	物	一六
心	こゝろ／こゝ	一一二
こゝろ／こゝ	心	二
お	を	五二
を	お	一〇
事	こと	九
こと	事	一五
思(ふ)	おも(ふ)	三七
おも(ふ)	思(ふ)	〇

本文、異同箇所をみていく。なお、ここに示す括弧内の数字は、学習院本の(軸数・紙数・行数)を示している。

①尾州家本の本文に補入したことで学習院本と同じ本文になる例

(二七例)

- 「なとに」(一・一・八) 「し」(一・六・八)
- 「さ」(一・九・六) 「て」(一・一九・六)
- 「れ」(一・二三・八) 「は」(一・二七・九)
- 「なと」(一・三一・四) 「た」(一・三二・六)
- 「う」(二・一・一) 「も」(二・二・五)
- 「も」(二・六・六) 「な」(二・六・九)
- 「は」(二・八・五) 「に」(二・九・三)
- 「いと・」(二・九・一〇) 「とて」(二・一一・一)
- 「を」(二・一一・一) 「を」(二・一八・五)
- 「も」(二・二一・八) 「おやの」(二・二四・一)
- 「に」(二・二四・二) 「心ちしたまふ」(二・三二・六)
- 「れは」(二・三五・三) 「に」(三・一・五)
- 「き」(三・三・一〇) 「御」(三・四・二)
- 「権」(三・二二・五)

②尾州家本の本文をミセケチにしたことで学習院本と同じ本文になる例（一一例）

「の」(二・五・二) 「と」(一・二二・二)
 「を」(二・二二・七) 「し」(二・二九・七)
 「こ」(二・四・六) 「あ」(二・九・四)
 「さ」(二・二〇・三) 「に」(二・二七・二)
 「の」(二・三四・一) 「た」(三・七・六)
 「い」(三・三一・九)

③尾州家本の本文に補入したことで学習院本と違う本文になる例

(一例)

「な」(二・五・八)

学習院本、尾州家本ともに「とけむ」の本文だが、尾州家本は、「な」が補入され、「とけなむ」となっている。「とけむ」の本文は、定家本系では為秀筆本、河内本系では七毫源氏、高松宮本、平瀬本、大島本である。

④学習院本の本文に補入したことで尾州家本と同じ本文になる例（九例）

「あそひをも」(二・三・九) 「て」(一・二三・五)
 「みやうとまれんとわりなく思つくるひうとき人に」(一・三四・九)

「か」(二・二・二) 「いよのすけのこもあり」(三・六・一)
 「り」(三・九・七) 「し」(三・二九・七)
 「を」(三・三三・四) 「お」(三・三四・三)

⑤学習院本の本文をミセケチにしたことで尾州家本と同じ本文になる例（三例）

「いて」(一・一三・三) 「すき」(三・六・六)
 「まち」(三・三一・三)

⑥学習院本の本文に補入したものの尾州家本と違う本文になる例

(一例)

「こ君かいてぬるほとにいとけち」(三・三〇・二)

学習院本のみ、この箇所異なる。定家本系「小君が出ていぬるほとにいとけちかければ」、河内本系「小君が出てぬるほとにいとけちかければ」、別本「小君が出てまいりぬるほとにいとけちかければ」となっている。なお、『河内本源氏物語校異集成』⁸⁾では、学習院本の「いとけち」の下が破れているが、紙にとくに破損はないため、途中でしかない補入である可能性が高い。

⑦学習院本の本文をミセケチにしたことで尾州家本と違う本文になる例 (一例)

「は」(二・三四・六)

定家本は「内よりはふたかりて」、河内本系は「内よりはこなたはふたかりて」となっている。ただし、双方ともに「内よりは」となっており、学習院本のように「内より」となっていない。なお、国冬本は「内よりこなたはふたかりて」となっている。「内よりこなたは」とした方が文章としては良いため、ミセケチにされただけであろう。

⑧学習院本と尾州家本で異なる例

学「そへて」

尾「よそへて」

(一・二九・三)

「そへて」は学習院本のみ。

学「みそれふるに」

尾「みそれふるよ」

(二・五・一)

河内本系大島本は、「みそれふるに」の本文がある。また、

高松宮本は、「よ」の横に異文注記で「に」と書いている。

学「この人」

尾「この人の」

(二・一〇・一〇)

河内本系と陽明文庫本は「この人の」という本文であり、残りは学習院本と同じ「この人」である。

学「き、はやすへき人」

尾「き、はやすへき人」

(二・一三・一)

「き、はやすへき人」は尾州家本のみ。

学「まはゆき心に」

尾「まはゆきこ、ち」(二・一三・八)

「まはゆき心に」は学習院本のみ。

学「いて侍らぬ」

尾「いて侍らぬ」

(二・二〇・六)

岩国本

——いて侍らぬ

七毫源氏、高松宮本、平瀬本、大島本

——いて侍らぬ

国冬本

——き、いてぬ

学「とけたかく」

尾「とけたかく」

(二・三三・五)

「とけたかく」は尾州家本のみ。

学「とひかひて」

尾「とひまかひて」

(三・二一・六)

「とひかひて」は学習院本のみ。陽明文庫本は「とひかひて」で「て」がない。国冬本は「とひまよひて」となっている。

学「あなくらとて」

尾「あな^らるしとて」(三・一〇・二)^⑨

定家本系では、松浦本、為秀本が「あなくるし」、池田本が「あなくら^ら」となっている。また、河内本系では、岩国本が「あなくるし」となっている。

学「そなたよりは」

尾「あなたよりは」

(三・一〇・九)

「そなたよりは」は学習院本のみ。

学「あはれと」

尾「あれと」

(三・一六・八)

定家本系

——心くるしくはあれと

七毫源氏、高松宮本、平瀬本

——心くるしくあれと

岩国本

——心くるしくはあれとも

河内本系大島本

——ナシ

別本

——心くるしういとをしけれど

学「あふせ」

尾「あふよ」

(三・二四・九)

「あふせ」は学習院本のみ。

学「はつかしく」

尾「いとはつかしく」(三・三二・六)

「はつかしく」は学習院本のみ。

⑨合点

- ・人の物いひさかなさよ(一・一・五) 学習院本
- ・しのふのみたれやと(一・一・一〇) 学習院本 尾州家本
- ・あやにくにて(一・二・五) 学習院本
- ・つれきこえ(一・四・二) 学習院本
- ・心あてに(一・五・九) 学習院本
- ・まどのうちなるほとは(一・七・六) 学習院本
- ・かみはしもにたすけら(一・一六・六) 学習院本
- ・とあれはかゝり(一・一六・一〇) 学習院本 尾州家本
- ・など・くまなき物いひも(一・二二・二) 学習院本 尾州家本
- ・みと、めて(一・二三・七) 尾州家本
- ・にこりにしめるほとよりも(一・二五・九) 尾州家本
- ・つなかぬふねの(一・二七・六) 尾州家本
- ・ひたやこもりに(二・六・六) 尾州家本
- ・つなひきて(二・七・九) 尾州家本
- ・たはふれにく、なん(二・八・二) 尾州家本

- ・たちぬふかたをのとめて(二・八・九) 尾州家本
- ・月たにやとるすみか(二・一一・三) 尾州家本
- ・かけもよしなど(二・一一・九) 尾州家本
- ・にはのみちこそ(二・一二・六) 尾州家本
- ・ちりをたになと(二・一八・二) 尾州家本
- ・あるしもさかなもとむと(三・二・八) 尾州家本
- ・なよたけの心地して(三・一六・五) 尾州家本
- ・ありしなから(三・一七・四) 尾州家本
- ・のちせをもやと(三・一七・六) 尾州家本
- ・よいしまはみきと(三・一七・九) 尾州家本
- ・へたつるせきのと(三・二〇・五) 尾州家本
- ・ぬるよなければ(三・二四・一〇) 尾州家本

尾州家本の本文への書き入れによって学習院本と同じ本文になる用例が非常に多い。また、尾州家本は、本文料紙を削って文章を書き変えたり、書き入れをすることで文章を変えたりと、校訂作業の経過が見て取れる。これは、源光行・親行が書いた河内本源氏物語を写したのではない可能性を示唆するといえる。むしろ、こうした校訂の痕跡のない、学習院本の方が、河内本源氏物語のオリジナルを写したものである可能性が高い。一方で、朱点や合点に着眼すると、尾州家本は学習院本に比べ、朱点の数が多い。また、学習院本は、第一軸のみに合点があり、尾州家本は、「帚木」巻全体

に合点があるものの、特に後半に集中している。少なくとも、合点に関しては、学習院本は不完全である。しかし、朱墨で書かれたこれらの書き入れは、本文が書かれたのと同時期に書かれたのではない可能性が高く、成立の前後関係を問題にする際には必要はないといえる。

四：当該本における「給うつ」

学習院本「帚木」巻には、「たまうつ」「たまふつ」という言葉が三例出てくる。用言の連用形に接続する「つ」が「たまふ」という終止形に接続することはない。このため、「たまふつ」は誤用であるといえる。しかし、「たまうつ」は、「たまひつ」がウ音便化したものである。

- ① ことすくなにて・とかくまきはしつ、とりかくしたたまうつ
(一・六・二～三)
- ② はてくは・あやしきろむともになりて・あかしたたまふつ
(二・三三・七～八)
- ③ ことなる事なければ・き、さしたまふつ (三・四・八～九)

学習院本の場合は、三例のうち、二例が「たまふつ」という誤用である。ただし、発音上は「たまうつ」と同じである。「たまふつ」

は校訂されてしまう可能性があるが、「たまうつ」は、他の巻に見出すことができる。

- a 聞こしめししことの後は、またこまかに見たてまつりたまうつ、(薄雲②四五四)
- b 他事に言ひなしたまうつ。(少女③四八)
- c 御馬、鞍をととのへ、隨身、馬副の容貌、丈だち、装束を飾りたまうつつ、めづらかにをかし。(行幸③二九〇)
- d 堅き巖も沫雪になしたまうつべき御気色なれば、(行幸③三二一)
- e 御背後より取り取りたまうつ。(夕霧④四二七)
- f おほるけに思ひあまりてやは、かく書きたまうつらむ、(夕霧④四三三)
- g 嘆き明かしたまうつ。(夕霧④四八〇)
- h ひがひがしきことどもし出でたまうつべき(夕霧④四八三)
- i おし包みて出だしたまうつ。(夕霧④四八七)
- j いとたまさかに、つれなくなりまさりたまうつつ、(夕霧④四八九)
- k 若きどち思ひかはしたまうつべき人ざまになん(匂兵部卿⑤二八)

「夕霧」巻に用例が集中しており、また、そのうちの三例が、学

習院本と同じ終止形である。校訂された本文であるため、「たまふつ」が存在したかどうかは不明ではあるが、少なくとも、「たまふつ」が何度も使用されており、違和感がないことがわかる。

五、「伝為家筆本」の僚本とその古筆切

小林強のまとめを引き継いだ大内英範がまとめた「伝為家筆本」の伝存状況を簡略化したものを以下に示す。

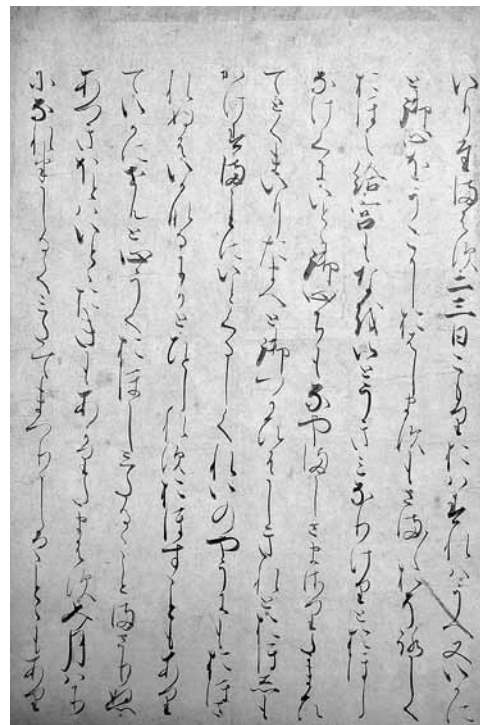
帚木（卷子）	常夏（卷子）
花宴（卷子）	真木柱（断簡） 一葉
明石（二卷）	幻
薄雲（断簡） 一六葉	竹河（断簡） 一葉

これらとは別に、新出資料として、「若紫」巻、「真木柱」巻を紹介する。また、國學院大學所蔵の「花宴」巻（既発表）、個人蔵「薄雲」巻（既発表）を、比較のために載せる。

① 個人蔵「若紫」巻断簡（『源氏物語大成』一七四〜一七五頁）

■寸法 縦三一・四cm×横二〇・九cm

■字高 二八・〇cm



■翻刻（「・」は朱点を示す）

- 1 いたりたまはず・二三日こもりおはすれは・うへ又いかに
- 2 と御心をうこかしおはしますもさまくおそろしく
- 3 おほえ給・宮もなをいとうきみなりけりとおほし
- 4 なげくに・いと、御心ちもなやましさまさりたまひ
- 5 て・とくまいりたまへと御つかひはしきれと・おほしも
- 6 かけす・まことにいとくるしくれいのやうにもおほさ
- 7 れぬは・いかなるにかと・ひとしれすおほすこともあり
- 8 て・いかにせんと心うくおほしみたる、ことまさりぬ・
- 9 あつきほとはいと、おきもあかりたまはず・み月はかり

10 になれはしるくみたてまつりしること、もあり

■尾州家本(「・」)は朱点を示す) 二五〇〜二五ウ／第一卷・

三六五〜三六六頁

- 1 いらたまはず、二三日こもりおはすれば・うへ又いかに
- 2 と御心をうこかしおはしますも・さま／＼おそろしく
- 3 おほえたまふ、みやもなをいとうきみなりけりとおほし
- 4 なけくに・いと、御心地もなやましさまさりたまひ
- 5 て・とくまいりたまへと御つかひはしきれと・おほしも
- 6 かけす、まことにいとくるしく・れいのやうにもおほさ
- 7 れぬは・いかなるにかと・ひとしれすおほすこともおほさ
- 8 て・いかにせむと心うくおほしみたる、ことまさりぬ、
- 9 あつきほとはいと、おきもあかりたまはず、み月はかり
- 10 になれは・しるくみたてまつりしること、もあり

■大島本(「・」は朱点を示す) 三三〇〜三三ウ／第一卷・四四七

〜四四八頁

- 1 へもまひらて・二三日こもりおはすれば・又いかなるにか
- 2 と・御*〈心〉うこせ給へかめるも・おそろしうのみ
- 3 おほえ給ふ・宮もなをいと心うきみなりけりと・おほし
- 4 なけくに・なやましさまさり給ひ
- 5 て・とくまひり給へき・御つかひしきれと・おほしも

- 6 た、す・まことに御心ちれいのやうにも・おはしま
- 7 さぬは・いかなるにかと・人しれすおほす事もあり
- 8 ければ・心うくいかならむとのみおほしみたる・
- 9 あつきほとは・いと、おきもあかり給はず・三月
- 10 になり給へは・いと、しるきほとにて・人／＼みたてまつりとか
むるに

*「心」と補入記号は朱墨か。

■校訂本文(括弧内は、前後の情況を示すために付した)

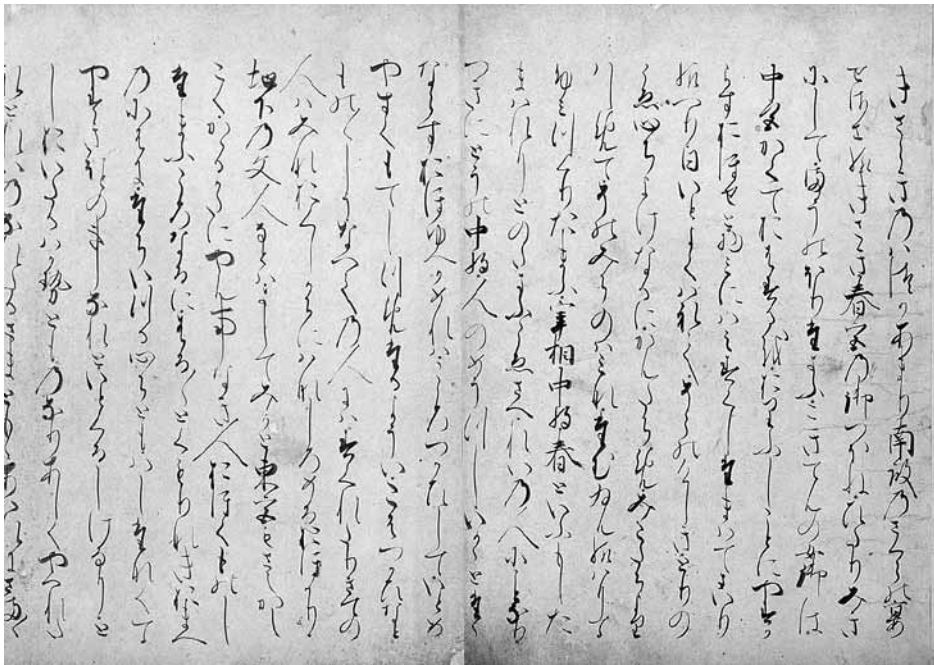
(内裏へもま) いらたまはず。二三日籠りおはすれば、上、また、いかにと御心を動かしおはしますも、さまさまおそろしくおほえたまふ。宮も、なほ、いと憂き身なりけりと思し嘆くに、いとど御心地もなやましさまさりたまひて、とく参りたまへと御つかひはしきれど、思しもかけず、まことにいとくるしく、例のやうにも思されぬは、いかなるにかと、人知れず思すこともありて、いかにせんと心憂く思し乱ることまさりぬ。暑きほどはいとど起きも上がりたまはず。三月ばかりになれば、しるく見奉り知ることどもあり

■現代語訳(括弧内は、前後の情況を示すために付した)

(源氏は、内裏へも参) 上なさらぬ。二三日引きこもっていらっしやうだったので、父帝が、またどうしたのかと動揺なさっているのも、

あれこれと恐ろしく思いなされる。宮（藤壺）も、やはり、ひどく辛い身であったと思ひ嘆いていと、たいそうご気分も苦しさが増してきて、早く参内なさるようにとの帝の御使者が頻りだけれど、そのような気持ちにもならず、本当にひどく苦しく、いつものような体調にもお思ひにならないのは、どうしたことかと、ひそかにお思ひになることもあつてどうしたらよいだろうと情けなく思ひ乱れることが多かつた。暑いころはさらにいっそう起き上がりなさらな。三か月ほどになると、はつきりと見申し上げ知ることもあつて、

② 國學院大學所蔵「花宴」巻

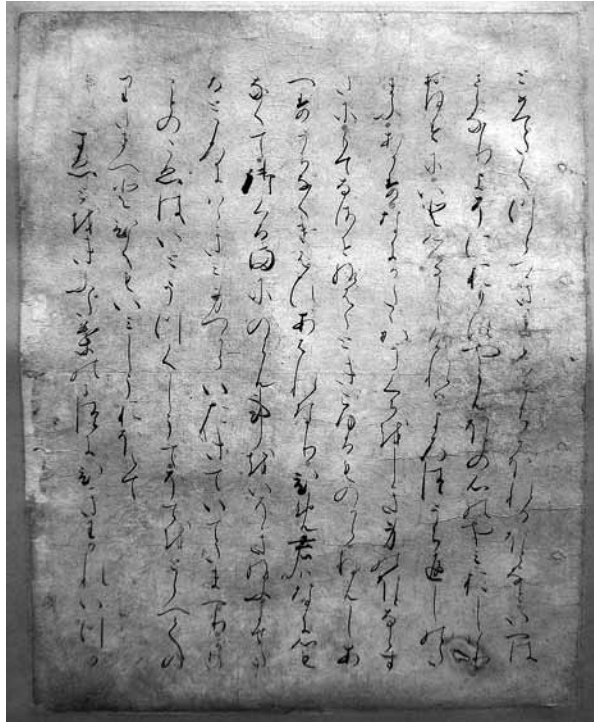


③ 個人蔵「薄雲」巻断簡^⑥

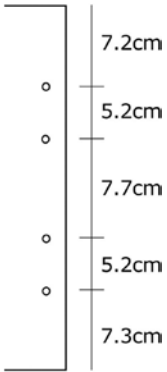
■ 寸法 縦三二・六cm×横二六・〇cm

■ 字高 二八cm

■ 軸装



この切には、右端に綴じ穴が残っている。この寸法を測ると、以下の図のようになっている。ここで注意したいの



が、紙の上部から一つ目の穴までと、四つ目の穴から紙の下部までのサイズがほぼ同じだということである。このことは、軸装にする際に、この切りサイズされなかった可能性が高いことを示している。

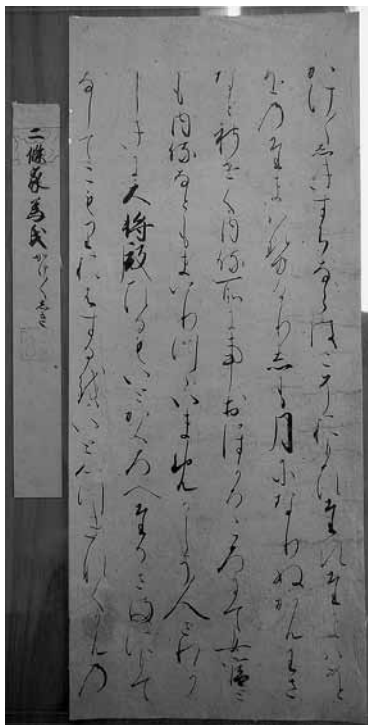
④ 個人蔵「真木柱」巻断簡（『源氏物語大成』九三六〜九三七頁）

■ 寸法 縦三〇・〇cm×横一一・五cm

■ 字高 二七・〇cm

■ 極札 「二條家為氏かけくしき」（縦一七・〇cm×横二・一cm）

■ 鑑定家印（未詳）あり。



■ 翻刻（「・」は朱点を示す）

- 1 かけくしきすちならはこそ・おもひたえたまはめと
- 2 をのたまはせけり・しも月になりぬ・かんわさ

- 3 などしけく・内侍所に事おほかるころにて・女官と
- 4 も内侍なともまいりつ、いまめかしう人さわか
- 5 しきに・大将殿ひるもいとかくろへたるさまにもて
- 6 なして・こもりおはするを・いと心つきなく・かんの

■尾州家本（「・」は朱点を示す）二ウ／三オ／第五卷・一六

六／一六七頁

- 1 かけくしきすぢならはこそおもひたえたまはめと
- 2 をのたまはせけり・しもつきになりぬ・かんわざ
- 3 などしけく・内侍所にごとおほかるころにて・女官と
- 4 は内侍なともまいりつ、いまめかしうひとさはか
- 5 しきに・大将殿ひるもいとかくろへたるさまにもて
- 6 なしてこもりおはするを・いと心つきなくかんの

■大島本（「・」は朱点を示す）三オ／三ウ／第五卷・三四九／三

五〇頁

- 1 かけくしきすぢならはこそは・思たへ給はめなど
- 2 の給はせけり・しも月になりぬ・神所々わざ祭有て不及記之
- 3 などしけくないし所にもことおほかるころにて・女くわん
- 4 とも内侍ともまいりつ、いまめかしう人さはか
- 5 しきに・大将殿ひるもいとかくろへたるさまにもて
- 6 なして・こもりおはするを・いと心つきなく・かむの

■校訂本文（括弧内は、前後の情況を示すために付した）

「口惜しう、宿世なりける人なれど、さ思しし本意もあるを。宮仕へなど）かけくしき筋ならはこそ、思ひ絶えたまはめ」とをのたまはせけり。霜月になりぬ。神事など繁く、内侍所に事多かるころにて、女官ども、内侍なども参りつつ、いまめかしう人騒がしきに、大将殿、昼もいと隠ろへたるさまにもてなして、籠りおはするを、いと心つきなく、尚侍の（君は思したり。）

■現代語訳（括弧内は、前後の情況を示すために付した）

（帝は、「残念ながら、私と一緒にならない宿世の人だったのだから、うけれど、そのよう（尚侍）にという考えもあるのだから。同じ宮仕えといっても、）男女の仲であつたらば、この思いは絶えてしまつたであろう。」と少し仰せになつた。霜月になつた。神事などが頻繁に行なわれ、内侍所でも用事の多い時期なので、女官たちや内侍司の者たちも参上して、はなやかに人が多く出入りして慌たらしい頃、大将殿（鬚黒）は、昼間でもたいそうこっそりと玉鬘の部屋に行き、籠っていらつしやるのを、なんと不愉快なことに尚侍（玉鬘）の（君は思つていらつしやる。）

今回、新出資料が出たことで、「伝為家筆本」の伝存情況は、以下のようになる。

帚木 (卷子)	花宴 (卷子)
若紫 (断簡) 一葉	明石 (一卷)
薄雲 (断簡) 一六葉	幻
常夏 (卷子)	竹河 (断簡) 一葉
真木柱 (断簡) 二葉	

補記

この調査は、平成二六年度学習院大学人文科学研究所「若手研究者研究助成」(研究題目:「学習院大学日本語日本文学科所蔵『源氏物語』「帚木」巻の書誌調査)、および平成二七年度同研究所「若手研究者研究助成」(研究題目:「鎌倉期写『源氏物語』(河内本)の研究」)を受けて行なったものである。

貴重な資料の撮影及び掲載をご許可くださった学習院大学文学部日本文学日本文学科、國學院大学図書館、各古筆切所有者に御礼申し上げます。

注

(1) 小林強「源氏物語関係古筆切資料集成稿」(『本文研究』第六集、和泉書院、二〇〇四年)、大内英範「尾州家河内本とその本文」(『源氏物語 鎌倉期本文の研究』おうふう、二〇一〇年)。ただし、この一連の河内本『源氏物語』には、伝為家筆ではないものも少なからずあるため、この名称は考え直す必要がある。

(2) 山岸徳平「河内本源語の価値」(『文学』五一—一〇、一九三七年)によると、河内本『源氏物語』は、「河内守源光行、親行父子——殊更

に親行が、多年の努力を費して、主要な八本及びその他合せて二十余种の本文を以って校勘した」ものである。

(3) 高田信敬は、「源氏物語の古筆切 二題」(紫式部学会『源氏物語と源氏以前 研究と資料』武蔵野書院、一九九四年)で、「伝為家筆大四半切、もとをとれば大型列帖装冊子本は、縦三〇糎横五〇糎を越える科紙を二つにおり、重ね綴じて製作される。この料紙寸法、鎌倉時代の手紙の料紙として金沢文庫に伝来する標準的な大きさの縦三二(三五糎横五〇)五五糎にきわめて近い。書籍と手紙とは料紙の持つ意味が異なるであろうけれども、尾州家本の由来、河内守光行親行と鎌倉の深いゆかりを考えると、いろいろ夢の広がる場所である。」と述べる。ただし、高田信敬は、同筆であるもののみを一具の源氏物語として取り扱うという姿勢であるのに対し、岡嶋偉久子(注4)は、「これらが僚巻であったことを確実に否定する事実はなく、むしろ様々な事象は僚巻である可能性を限りなく推測させる。」としている。本論では、同様の理由から岡嶋論を採る。

(4) 岡嶋偉久子「天理図書館蔵「伝俊成筆源氏物語鈴虫巻」」(『尾州家河内本源氏物語』との対校から付稿「大成」収録「俊」本再考)、『ピブリア』一三九号、二〇一三年五月)。なお、大型冊子本源氏物語については、小林強(前掲書)、大内英範「河内本の本文について——尾州家本の本文態様と「伝為家筆本」——」(伊井春樹監修、伊藤鉄也編『講座源氏物語研究第七巻源氏物語の本文』おうふう、二〇〇八年)などの先行研究がある。

(5) 武藤那賀子「学習院大学所蔵『源氏物語』河内本「帚木」巻解題と翻刻(第一軸・第二軸)」(『人文』第十四号、二〇一六年三月) 一・四・二 誤「かくしあらずなむ」正「かくしあえずなむ」 一・三四・七 誤「す、めるかたの人」正「すくめるかたの人」

二・三四・六 誤「内よりは」 正「内より傳」

(6) なお、この古筆切については、針本正行「源氏物語の古筆切を読む（特集）シンポジウム 源氏物語と古筆切」(『年報』第三四号)実践女子大学文芸資料研究所、二〇一五年三月)に詳しい。

(7) なお、学習院本と尾州家本を比較した表を最後に掲げる。この表において使用している数字は、「軸数—紙数—行数(該当個数)」を示す。ただし、一つの行に一例のみの場合は、該当個数を示してゐない。

(8) 加藤洋介『河内本源氏物語校異集成』風間書房、二〇〇一年

(9) 濱橋顕一「異文二題——「あな暗」「けはひしつる所に入りたまへれば」『源氏物語』の鑑賞と基礎知識⑦「帚木」至文堂、一九九九年

ENGLISH SUMMARY
 Commentary and reprint of “Hahakigi”, the second volume
 of *Genji monogatari* (the possession of Gakushuin University),
 the same series of books and *Kohitsugire*

MUTO Nagako

There is the Kawachibon-series of “The Tale of Genji” called “*Tameie-hitsubon*”. This is thought to be closely related to Bishukebon (the book that Bishu family had) which is preserved as the former Kanazawa Bunko. Also from handwriting and literature, the time to copy it can also be said to be in the middle Kamakura same as Bishukebon. However, in this series of Kawachibon-series of “The Tale of Genji”, there are many things that have been renovated into winding pieces and those left only with a letter and few are few. Department of Japanese Language and Literature of Gakushuin University possesses the holdings of “Hahakigi”, the second volume of *Genji monogatari* (*Tale of Genji*) copied by Tameie Fujiwara.

The present writer have done a bibliography commentary and the entire reprint of this book (volume1, 2) in the “Commentary and reprint of “Hahakigi”, the second volume of *Genji monogatari* (the possession of Department of Japanese Language and Literature of Gakushuin University)”. This paper presents entire reprint of this book (volume3) and the books or pieces of the same group.

Key Words: Kawachibon-series, “Hahakigi”, the manuscript of the Kamakura period, Tameie Fujiwara, Bishu family

表 学習院本と尾州家本の比較

学習院本「フ」	尾州家本「フ」	学習院本「フ」	尾州家本「フ」											
1-15	1-18	1-22	1-26	1-31	1-32	1-35	1-37	1-43	1-51	1-52	1-58	1-63	1-72	1-75
1-78	1-81	1-84	1-87	1-810	1-92	1-94	1-96	1-910	1-107	1-109(2)	1-111	1-116	1-119	1-122
1-126	1-1210	1-134	1-136	1-138	1-141	1-143	1-147	1-153	1-156	1-162	1-164	1-1610	1-177	1-1710
1-184	1-192	1-194	1-212	1-216	1-2110	1-223	1-228	1-231	1-233	1-239	1-241	1-242	1-247	1-248
1-2410(2)	1-253	1-255	1-256	1-257	1-259	1-261	1-263	1-266	1-267	1-269	1-271	1-273	1-275	1-276
1-279	1-2710	1-285	1-2810	1-291	1-299	1-309	1-316	1-324	1-331	1-332	1-334	1-341	1-212	2-14
2-31	2-310	2-53	2-62	2-65	2-73	2-74	2-79	2-82	2-84	2-88	2-810	2-91	2-94	2-95
2-101	2-106	2-114	2-116	2-118	2-122	2-125	2-1210	2-139	2-141	2-144	2-147	2-148	2-152	2-153
2-154	2-156	2-157	2-158	2-165	2-1610	2-176(2)	2-177	2-185	2-1810	2-191	2-195	2-201	2-203	2-204
2-207(2)	2-209	2-212	2-213	2-217	2-219	2-2110	2-226	2-2210	2-235	2-241	2-251	2-253	2-258	2-261
2-264	2-265	2-2610	2-273	2-277	2-2710	2-283	2-288	2-291	2-295	2-297	2-302	2-306	2-307	2-317
2-319	2-324	2-328	2-3210	2-3310	2-343	2-344	2-345	2-355	2-358	3-19	3-110	3-22	3-23	3-24
3-26	3-31	3-33	3-41	3-42	3-48	3-49	3-51	3-53	3-59	3-65	3-68	3-72	3-73	3-74
3-75	3-77	3-78	3-85	3-86(2)	3-91	3-96	3-98	3-910	3-104	3-106	3-107	3-1010	3-112	3-113
3-115	3-119	3-125	3-127	3-1210	3-134	3-136	3-137	3-139	3-141	3-148	3-1410	3-155	3-163	3-166
3-169	3-179	3-181	3-182	3-183	3-185	3-186	3-187	3-188	3-189(2)	3-192	3-195	3-197	3-202	3-203
3-205	3-207	3-208	3-2010	3-212	3-214	3-216	3-217	3-222	3-223	3-225	3-226	3-229	3-231	3-233
3-234	3-235	3-236	3-237	3-238	3-239	3-2310(2)	3-243	3-246	3-247	3-2410	3-251	3-253	3-254	3-257
3-259	3-264	3-266	3-269	3-272	3-274	3-276	3-2710	3-283	3-285	3-286	3-289	3-293	3-294	3-295
3-304	3-306	3-307	3-3110	3-322	3-327	3-3210	3-331	3-333	3-335	3-343(2)				計304
1-11(3)	1-12(3)	1-13(2)	1-14	1-15(2)	1-16(2)	1-110(3)	1-23(2)	1-24(2)	1-25(2)	1-26(2)	1-27	1-28(2)	1-29(2)	1-210
1-32	1-33	1-34	1-35	1-39	1-41	1-42	1-45	1-46	1-48(2)	1-410	1-51	1-52	1-53(2)	1-58
1-61	1-62	1-65	1-71(2)	1-72	1-74	1-75	1-77	1-79	1-81	1-82	1-83(2)	1-84(3)	1-85	1-87
1-88(3)	1-89(2)	1-810(2)	1-91	1-92	1-95(2)	1-97(2)	1-98	1-99(3)	1-910	1-101	1-102	1-103	1-105	1-106(2)
1-108	1-109	1-11(4)	1-112(2)	1-113	1-117(2)	1-122(2)	1-123	1-124	1-125	1-127(2)	1-1210	1-132(2)	1-133(2)	1-134(2)
1-135	1-136	1-137	1-138(2)	1-139	1-141(2)	1-142	1-143	1-145(2)	1-146	1-148	1-1410(2)	1-152	1-154	1-155
1-161	1-163	1-166	1-168	1-1610	1-172	1-174	1-175	1-176(2)	1-177	1-1710	1-181	1-182(2)	1-184	1-186(2)
1-189(2)	1-1810(2)	1-191(2)	1-195	1-198	1-1910	1-202	1-206	1-207	1-209	1-2010	1-212	1-213(2)	1-215(2)	1-216

1-21-8	1-21-10	1-22-2	1-22-3(3)	1-22-5	1-22-7	1-22-8	1-22-9	1-22-10	1-23-1	1-23-2	1-23-5(2)	1-23-7	1-23-10(2)	1-24-1(2)
1-24-2	1-24-4	1-24-9(2)	1-24-10(2)	1-25-3	1-26-1	1-26-3	1-26-7	1-26-10	1-27-1	1-27-2	1-27-4	1-27-5	1-27-6	1-27-8(2)
1-27-10	1-28-7	1-28-9	1-29-4	1-29-5	1-29-7(2)	1-29-8(2)	1-30-1	1-30-2	1-30-7(2)	1-31-1	1-31-3	1-31-9	1-32-8	1-33-1
1-33-7(2)	1-33-8	1-34-3	1-34-4	1-34-6	1-34-9(3)	2-1-2	2-1-4(2)	2-1-6	2-2-3	2-2-5	2-2-6	2-2-7	2-3-10	2-4-1(2)
2-5-1(2)	2-5-2	2-5-3	2-5-4	2-6-4	2-6-5	2-6-6	2-7-1	2-7-6	2-7-8	2-7-10(2)	2-8-2	2-8-7	2-8-8	2-8-10
2-9-1	2-9-2	2-9-5(2)	2-9-6	2-9-7(2)	(2-9-10)	2-10-2	2-10-4(2)	2-10-5	2-10-6	2-10-7	2-10-8	2-10-10	2-11-3	2-11-5(2)
2-11-9	2-12-6(3)	2-13-2	2-13-5	2-13-5	2-13-6(2)	2-13-7	2-13-9(2)	2-14-8	2-14-9	2-15-1	2-15-4	2-15-6	2-15-7	2-16-3
2-16-8	2-17-1	2-17-4	2-17-7	2-17-8	2-17-10	2-18-4	2-18-5	2-18-6	2-18-8	2-18-9	2-19-6(2)	2-20-3	2-20-6	2-20-7
2-20-9	2-20-10	2-21-5	2-21-7	2-21-9	2-22-8(2)	2-22-10	2-23-9(2)	2-23-10	2-24-2	2-24-4	2-24-7	2-24-9	2-24-10(2)	2-25-1
2-25-4	2-25-8(2)	2-25-9	2-26-2	2-26-5(2)	2-26-7	2-26-10(2)	2-27-1	2-27-4(2)	2-28-1	2-28-2	2-28-5(3)	2-28-6	2-28-8	2-28-9
2-29-2	2-29-5	2-29-8	2-29-9	2-32-4	2-32-6	2-33-5	2-33-10(2)	2-34-1	2-34-2	2-34-4	3-1-1	3-1-3	3-1-6	3-2-3
3-2-7	3-3-3	3-3-4	3-3-7	3-3-8	3-4-2(2)	3-4-4	3-4-5(3)	3-4-6	3-4-7	3-4-10	3-5-3	3-5-4	3-5-5	3-6-1(2)
3-6-9	3-7-1	3-7-5	3-7-6	3-7-7	3-7-8	3-7-9	3-7-10	3-8-2	3-8-5	3-8-10(2)	3-9-5(2)	3-9-6	3-9-9	3-9-10
3-10-1	3-10-7	3-10-8	3-11-3(2)	3-11-5	3-12-1	3-12-3	3-12-4	3-12-5(2)	3-12-6	3-12-7(2)	3-12-8	3-13-3	3-13-6(2)	3-13-9
3-13-10	3-14-3	3-14-4(2)	3-14-7(2)	3-14-8	3-14-9	3-15-1	3-15-2	3-15-5	3-15-7(2)	3-15-9	3-15-10	3-16-3	3-16-7(2)	3-16-9
3-16-10(3)	3-17-4(3)	3-17-5	3-17-6	3-17-7(3)	3-17-10	3-18-1	3-18-2(3)	3-18-5	3-18-7(2)	3-19-3	3-19-5	3-19-6(2)	3-20-2	3-20-5
3-20-7	3-20-9	3-21-3	3-21-4	3-21-5	3-21-6	3-21-7(2)	3-21-8	3-21-9	3-21-10	3-22-1	3-22-3(2)	3-22-8	3-23-1	3-23-5
3-23-6	3-23-8	3-23-9	3-24-2	3-24-3	3-24-7	3-24-10	3-25-3	3-25-5	3-25-9	3-25-10	3-26-1	3-26-3	3-26-6	3-27-8
3-27-9	3-28-1(3)	3-28-2	3-28-7	3-29-2	3-29-3(2)	3-29-4(2)	3-29-6	3-29-9	3-29-10	3-30-1(4)	3-30-6	3-30-7	3-30-9	3-31-1(2)
3-31-2	3-31-4(2)	3-31-7	3-31-8	3-31-10	3-32-1	3-32-2	3-32-5	3-32-6	3-33-1	3-33-3	3-33-4(2)	3-33-7(2)	3-33-8(3)	3-33-10
3-34-3	3-34-5	3-34-7												■#551

学習院本「ナシ」尾州家本「ナシ」														
1-15-1	1-27-8	1-32-7	2-4-4	2-8-5	2-12-8	2-16-8	2-20-10	2-22-4	2-27-3	2-29-10	3-1-9	3-3-6	3-7-7	3-7-10
3-9-7	3-10-1	3-10-2	3-13-1	3-16-8	3-17-10	3-21-9	3-22-8	3-23-1	3-24-4	3-29-1	3-34-5			■#27

学習院本「ナシ」尾州家本「ナシ」														
1-10-4	1-13-8	1-15-5	1-15-9	1-16-4	1-16-5	1-18-2	1-19-7	1-22-3	1-24-4	1-27-1	1-27-8	1-28-2	1-29-2	1-29-3
1-29-6	1-29-7	1-29-8	1-30-8	1-31-6	1-31-8	1-31-9	2-2-3	2-2-6	2-2-7	2-3-9	2-4-1	2-6-4	2-7-5	2-7-10
2-10-3	2-11-7	2-11-8	2-12-10	2-13-5	2-14-4	2-16-6	2-16-10	2-17-1	2-18-1	2-18-2	2-18-4	2-19-1	2-19-2	2-20-1
2-20-3	2-21-2	2-21-3	2-22-2	2-32-6(2)	2-35-2	2-35-9	3-6-7	3-6-8	3-16-3	3-18-6	3-19-8	3-25-1	3-25-9	3-33-3
														■#61

学習院本【む】尾州家本【久】														
1-14	1-25	1-42	1-53	1-54	1-66	1-67	1-89	1-129	1-131	1-135	1-1310	1-147	1-205	1-211
1-215	1-227	1-241	1-245	1-258	1-285	1-291	1-323	1-325	2-18	2-32	2-33	2-69	2-77	2-85
2-10-10(2)	2-12-10	2-155	2-166	2-177	2-211	2-212	2-216	2-222	2-227	2-2410	2-251	2-267	2-272	2-273
2-297	2-295	2-319(2)	2-327	2-3210	2-352	2-3510	3-24	3-210	3-47	3-48	3-53	3-56(2)	3-68	3-71
3-72	3-76	3-81	3-82	3-85	3-89	3-94	3-107	3-116	3-121(2)	3-137	3-139	3-142	3-146	3-1410
3-154	3-155	3-158	3-1510	3-173	3-185	3-186	3-195(2)	3-199	3-106	3-214	3-215	3-218(2)	3-223	3-227(2)
3-229	3-223	3-233	3-246	3-256	3-264	3-271	3-278	3-286	3-287	3-288(3)	3-293	3-296	3-2910	3-301
3-302	3-308	3-312	3-313	3-316	3-319	3-321	3-322	3-323	3-3210	3-335	3-341			計126

学習院本【久】尾州家本【む】														
1-26	1-71	1-102	1-111	1-173	1-212	1-233	1-236	1-257	1-281	1-317	1-321	2-79	2-109	2-1510
2-235	2-236	2-249	2-2910	3-298										計120

学習院本【給】尾州家本【給】【たま(久)】														
1-18	1-39	1-57	1-65	1-89	1-155	2-39	2-58	2-228	2-237	2-329	2-3210	2-336	3-15	3-86
3-810	3-117	3-123	3-154	3-155	3-207	3-216	3-217	3-253	3-269	3-271	3-287			計112

学習院本【たま(久)】尾州家本【給】														
1-14	1-16	1-31	1-33	1-35	1-43	1-71	3-134	3-209	3-291					計110

学習院本【物】尾州家本【もの】														
1-18	2-21	2-1510	2-306	2-325	3-73	3-83	3-211							計18

学習院本【もの】尾州家本【物】														
1-27	1-36	1-107	1-246	1-254	1-2810	1-295(2)	2-99	2-1510	2-179	2-196	2-204	2-335	3-74	3-261
														計116

学習院本【心】尾州家本【こゝろ】														
1-34	1-41	1-72	1-136	1-152	1-172	1-182	1-213	1-214	1-218	1-2110	1-226	1-228	1-235	1-243
1-244	1-249	1-254	1-258	1-266	1-269	1-2610	1-281	1-289	1-292	1-294	1-308	1-314	1-323	1-336
1-3310	1-343	1-346	1-3410	2-12	2-17	2-23	2-46	2-62	2-67	2-68	2-96	2-910	2-106	2-111

2-11-4	2-14-3	2-14-5	2-14-8	2-15-4	2-16-9	2-17-1	2-17-5	2-17-7	2-17-9	2-18-2	2-18-8	2-19-6	2-21-7	2-23-3
2-25-7	2-25-10	2-29-10	2-31-6	2-31-8	2-31-10	2-32-3	2-32-10	3-1-4	3-2-4	3-4-6	3-5-5	3-10-1	3-11-10	3-12-1
3-12-5	3-12-7	3-12-9	3-13-5	3-15-2	3-15-6	3-15-8	3-16-1	3-16-5	3-16-6	3-17-5	3-18-10	3-19-3	3-19-6	3-19-8
3-20-5	3-20-10	3-21-3	3-21-4	3-21-8	3-22-4	3-22-2	3-23-2	3-23-9	3-24-3	3-24-4	3-25-6	3-26-1	3-27-7	3-28-4
3-30-4	3-30-9	3-31-1	3-31-4	3-31-9	3-32-5	3-33-9								計112

学習院本「こゝろ」尾州家本「心」														
1-7-7	1-33-10													計2

学習院本「お」尾州家本「を」														
1-4-1	1-5-6	1-5-7	1-7-10	1-9-9	1-13-2	1-14-8	1-18-2	1-22-8	1-23-7	1-26-10	1-27-7	1-31-4	1-31-5	1-32-9
2-9-8	2-13-8	2-15-8	2-18-2	2-18-9	2-19-1	2-21-7	2-22-8	2-23-3	2-24-6	2-25-5	2-26-6	2-30-1	2-31-3	2-31-7
2-33-8	3-1-10	3-3-1	3-3-3(2)	3-6-4	3-6-10	3-9-7	3-11-1	3-11-8	3-11-9	3-15-5	3-17-10	3-20-3	3-20-7	3-22-4
3-22-2	3-23-2	3-25-1	3-31-1	3-31-2	3-32-6									計152

学習院本「を」尾州家本「お」														
1-14-7	2-4-7	2-9-2	2-12-6	2-12-8	2-17-10	2-24-8	2-27-3	2-31-5	2-32-10					計110

学習院本「事」尾州家本「こと」														
1-5-4	1-11-5	2-17-2	2-22-8	2-27-9	3-17-10	3-23-10	3-25-7	3-30-1						計19

学習院本「こと」尾州家本「事」														
1-7-10	1-8-1	1-11-2	1-13-2	1-14-4	1-19-1	1-24-6	1-29-1	2-8-4	2-30-3	2-30-4	2-31-7	2-31-10	3-1-1	3-4-6
														計115

学習院本「思」尾州家本「おも（ふ）」														
1-12-6	1-14-5	1-15-1	1-34-2	1-34-4	1-34-9	2-1-7	2-2-10	2-5-2(2)	2-7-3	2-8-8	2-16-8	2-22-2	2-31-1	2-31-8
2-31-8	2-32-4	3-12-6	3-13-7	3-15-1	3-16-7	3-17-2	3-17-9	3-19-8	3-19-9	3-20-10	3-22-2	3-23-2	3-26-1	3-27-2
3-28-1	3-28-3	3-28-5	3-29-3	3-29-7										計137